

Case 2-2008: A 38-Year Old Woman with Postpartum Visual Loss,
Shortness of Breath, and Renal Failure
(New England Journal of Medicine 2008; 358:275-89)

1 SIRS

入院時 PR 104bpm、呼吸数 40/min、WBC 25000 であり、SIRS の基準を満たす。WBC は入院後減少し、3 日後には 7200 となった。

2 低酸素血症

入院時 SpO₂ 85%(room air)であったが、15L/min で酸素投与後 SpO₂ 98% (room air) まで回復した。

3 心機能低下

入院時、聴診にて S4 gallop が聴取され、30 度仰臥位にて頸静脈拍動を認めた。ECG ではわずかな非特異的 ST-T 異常、QT の若干の延長を認めた。BNP 8091。入院 5 日目に経胸的に心エコーを施行したところ、左室拡張、瀰漫性の左室運動低下をみとめ、EF 44%。Moderate MR, mild AR, 予測右室収縮期圧の mild な上昇 (47mmHg) を認めた。

4 息切れ、乾性咳嗽

入院 17 日前に急激な息切れ、胸部圧迫感を自覚した。帝王切開後症状は軽減したが、入院前日息切れ、乾性咳嗽が出現。Methylprednisolon と cyclophosphamide を経静脈投与したところ、投与中に息切れが突如悪化。15L/min で酸素投与がなされ、methylprednisolon, cyclophosphamide の投与は中止されたが、酸素投与下で呼吸数 30/min、呼吸は努力性で浅く、呼吸音が減弱し、瀰漫性に crackles が聴取された。緊急医療サービスにて Furosemide(40mg)を経静脈投与、nitroglycerin2 錠を舌下投与したところ、苦痛軽減し、呼吸数も減少した。入院時、酸素投与で症状は軽快した。聴診では crackles を両側肺底部から肺上部 1/3 にかけて聴取した。胸部 X 線にて斑状陰影を両側肺底部に認める。左より右肺でわずかに陰影が多い。

5 尿量減少、尿検査異常

入院前は尿量 1625ml であり、入院時の腎エコーでは異常を認めなかったが、3 日目より尿量が 900ml と減少。入院前より高蛋白尿が続き、入院 2 日前に尿中に血液を認め、入院 2 日後に赤血球円柱、顆粒球円柱を認めた。うっ血性心不全による腎前性要素とともに腎性の急性腎不全が考えられる。

6 悪心

入院 5 日後に悪心が出現した。

7 関節痛

14 歳の時 SLE による炎症性多発性関節炎の既往があるが、3 年間の治療後、症状は軽快している。今回入院 5 日目に発症した。

8 浮腫

入院時は下肢に浮腫が見られたが、入院 5 日目には全身性浮腫となった。

9 血中抗体価の上昇、補体価の低下

入院 10 日前から入院 6 日後にかけて IgA anticardiolipin antibody, IgG anticardiolipin antibody, IgM anticardiolipin antibody, antinuclear antibody, anti-ss DNA antibody が高いレベルで出現している。クリオグロブリンも少量認め、免疫固定では IgG kappa M component が見出されたが、電気泳動ではベンスジョーンズタンパク質は認められず、γ グロブリンの広範囲の低下が認められたのみであった。補体価は入院期間中、全体及び C4 において著明に低下を認めた。

10 視野のかすみと視力低下

帝王切開術後翌日、視界のかすみ、視界に複数の暗点が出現した。その翌日起床時に後頭部、左側頭部痛を感じた。眼科にて脈絡膜にブドウ膜炎、板状病巣を認め、Enoxaparin による治療を開始。5日後（今回入院の2日前）他院眼科を受診したところ、視力は右 20/300 左 20/200 であった。両側眼瞼結膜炎、非肉芽腫性ぶどう膜炎、強膜炎、網膜内出血と滲出液を伴った網膜血管炎、脈絡膜の低色素性の板状領域が存在し、蛍光色素による血管造影時では非還流領域が認められた。次の2日間他院の外来にて methylprednisolone 1000mg/day を経静脈投与された。最初の投与で左眼の視野は改善した。当院入院3日目、視力は両眼とも 20/400。6日目には両眼とも 20/200 となった。

#11 深部静脈血栓症 (DVT)

入院する4年前、左足に DVT を発症し、抗凝固薬で治療を受けていたが、ごく最近では低分子ヘパリンによる治療に変更している。入院日には D-dimer 2025 と高値を認め、血栓形成が疑われる。

#12 貧血

入院2日前から Hb 11.6 と貧血傾向を示し、入院2日後には Hb 10 未満に低下している。

#13 低アルブミン血症

入院2日後 Albumin 2.5 と低アルブミン血症を認める。

#14 非特異的炎症所見

入院2日前に ESR 116 と亢進している。CRP 30.9 と上昇している。入院2日後にはハプトグロビン 342 と上昇している。